

(案)

次期基本計画策定に向けた市民意識調査

(平成 24 年9月実施)

結果報告書

平成 年 月

鎌倉市

—目次—

第1章 調査の概要

1. 調査の枠組みについて	1
(1) 調査目的	1
(2) 対象	1
(3) 調査の構成	2
(4) 調査の実施方法	2
2. 調査票回収状況と回収率について	2
3. 集計について	2

第2章 調査結果

1. 基本属性	3
(1) 性別	3
(2) 年齢別	3
(3) 家族構成別	4
(4) 地区別	4
2. 鎌倉市への意識、生活状況について	5
(1) 市への定住意識	5
(2) 近所づきあい	6
3. 鎌倉市の取組の重要度と満足度	7
(1) 鎌倉市全体の分析結果	7
(2) 基本属性別の分析結果	9
ア 性別のクロス集計による分析結果	9
イ 年齢別のクロス集計による分析結果	9
ウ 家族構成別のクロス集計による分析結果	13
エ 地域別のクロス集計による分析結果	16
(3) 将来目標別の分析結果	19
ア 将来目標1「人権を尊重し、人との出会いを大切にするまち」の分析結果	19
イ 将来目標2「歴史を継承し、文化を創造するまち」の分析結果	20
ウ 将来目標3「都市環境を保全・創造するまち」の分析結果	21
エ 将来目標4「健やかで心豊かに暮らせるまち」の分析結果	22
オ 将来目標5「安全で快適な生活が送れるまち」の分析結果	23
カ 将来目標6「活力ある暮らしやすいまち」の分析結果	24

キ 計画の推進の分析結果	25
4. 「行政施策」の中で、将来に向けて、特に強く取り組んだほうがよい項目	26
(1) 鎌倉市全体	26
(2) 性別のクロス集計による分析結果	26
(3) 年齢別のクロス集計による分析結果	26
(4) 家族構成別のクロス集計による分析結果	27
(5) 地域別のクロス集計による分析結果	28
5. 「政策分野」の中で、将来に向けて、特に強く取り組んだほうがよいと感じる項目	30
(1) 鎌倉市全体	30
(2) 性別のクロス集計による分析結果	30
(3) 年齢別のクロス集計による分析結果	30
(4) 家族構成別のクロス集計による分析結果	31
(5) 地域別のクロス集計による分析結果	32
第3章 自由記入意見	
1. 自由記入意見記入状況と記入率	33
2. 自由記入意見公表における留意点	33
3. 自由記入意見一覧	35
参考資料1 クロス集計（性別）	58
参考資料2 クロス集計（年齢別）	122
参考資料3 クロス集計（家族構成別）	213
参考資料4 クロス集計（地域別）	304
参考資料5 アンケート調査票一式	368

第1章 調査の概要

1. 調査の枠組みについて

(1) 調査目的

第3次鎌倉市総合計画は、平成8年3月に策定され、平成37年度までの基本構想、平成27年度までの基本計画を定めています。市では、基本構想に掲げた将来都市像である「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」の実現に向けた市政運営を進めてきました。

現行基本計画は、人口減少社会の到来、右肩上がりの経済の終焉といった社会経済状況の下、新しい時代の社会変化に対応した「元気で輝く鎌倉」をつくるための計画として平成18年に策定し、これまでに前期・中期・後期の3期の実施計画に取り組んできました。

平成24年度にスタートした後期実施計画は、景気の低迷により市の歳入の根幹をなす市税収入に大きな改善が見込めない中、中期実施計画からの継続事業に新たな事業が加わったことにより、計画規模が拡大し、大きな財源不足が生じる結果となりました。

加えて、公共施設の老朽化に伴う維持管理・建替費用の増大や、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」を踏まえた安全・安心なまちづくり、特に、14mを超えると予測される大津波に対する防災・減災対策は、本市における新たな、そして緊急を要する課題であり、現在策定中の地域防災計画に基づいた取組が急務となっています。

このような中で、「鎌倉」に住むこと、訪れることの素晴らしさを、市民はもとより、世界中の方々に再確認してもらえよう、もう一度、基本構想における将来都市像の実現に向けたまちづくりを力強く進めていかなければなりません。

そのためには、今こそ、危機的状況にある、硬直化した行財政運営を改め、持続可能な都市経営をこれまで以上に推進するとともに、市民力・地域力を発揮し、鎌倉が誇る資源を活かしながら、新しい魅力を創造し続けることが重要です。計画の策定にあたっては、このような認識に基づいた、新たな視点からの対応が求められます。

そこで、今回、基本構想を一部修正するとともに、現行基本計画の見直しに着手し、次期基本計画を前倒しして策定しようとするものです。

計画策定にあたっては、より多くの市民がさまざまな方法で参加し、意見を述べる仕組みを設けることとしており、この市民意識調査も、計画策定における市民参加の一環として、市民の意向やニーズを把握することを目的として実施しました。

(2) 対象

平成24年9月1日現在、鎌倉市在住の18歳以上の市民のうち、2,000人を単純無作為で抽出し、対象としました。

(3) 調査の構成

調査の構成は、以下のとおりです。

- 基本属性 … 4 問
- 鎌倉市への意識や生活状況についての設問 … 2 問
 - ・定住意識について
 - ・近所付き合いについて
- 重要度・満足度指標についての設問 … 88 問
 - ・施策別の重要度・満足度について
 - ・特に強く取り組むべき行政施策
 - ・特に強く取り組むべき政策分野

(4) 調査の実施方法

平成 24 年 9 月 21 日（金）から平成 24 年 10 月 9 日（火）までを調査期間とし、郵送配布・郵送回収により実施しました。

2. 調査票回収状況と回収率について

調査票の回収状況と回収率は、以下のとおりです。

配布数	有効回答数	回収率
2,000 通	855 件	42.7%

3. 集計について

- ① 図表の数値は、回答率を表しています。なお、四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合があります。
- ② 複数回答の設問では、合計が 100%を超える場合があります。
- ③ 重要度、満足度について

- ・重要度については、「重要である」を 2 点、
「まあ重要である」を 1 点、
「あまり重要でない」－ 1 点、
「まったく重要でない」－ 2 点

という得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出し、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答数で除した数値を重要度指標として示しました。指標値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。

- ・満足度については、「満足である」 2 点、
「まあ満足である」 1 点、
「やや不満である」－ 1 点、
「不満である」－ 2 点

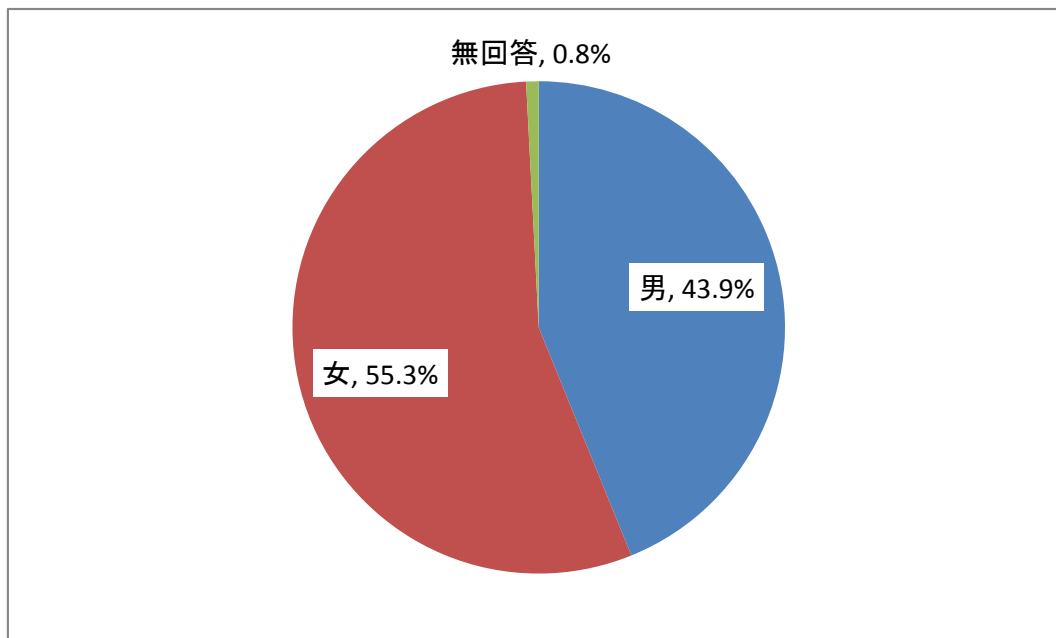
という得点を設定して、重要度と同様に算出した数値を満足度指標として示しました。指標値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。

- ・重要度、満足度の（ ）数字は、負数（マイナス）であることを表します。

第2章 調査結果

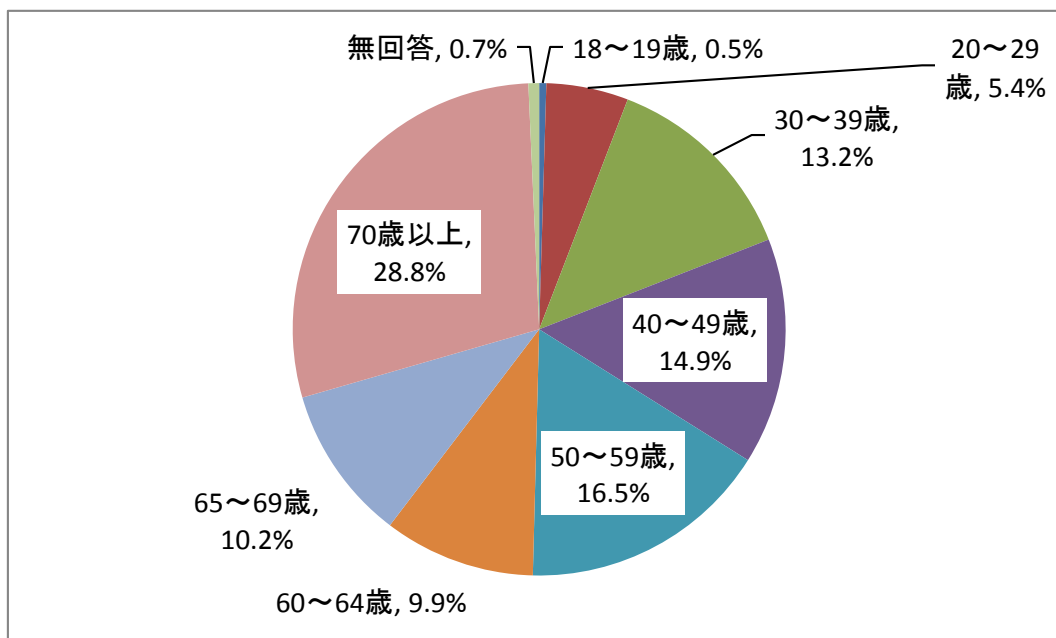
1. 基本属性

(1) 性別（1. ①）



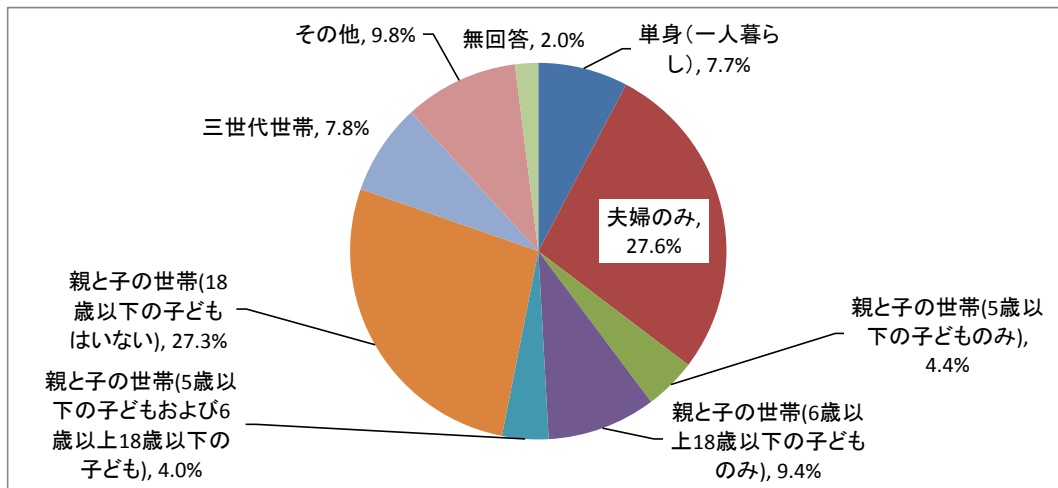
性別では、男性が43.9%、女性が55.3%と、回答者は女性の割合が大きい結果となりました。

(2) 年齢別（1. ②）



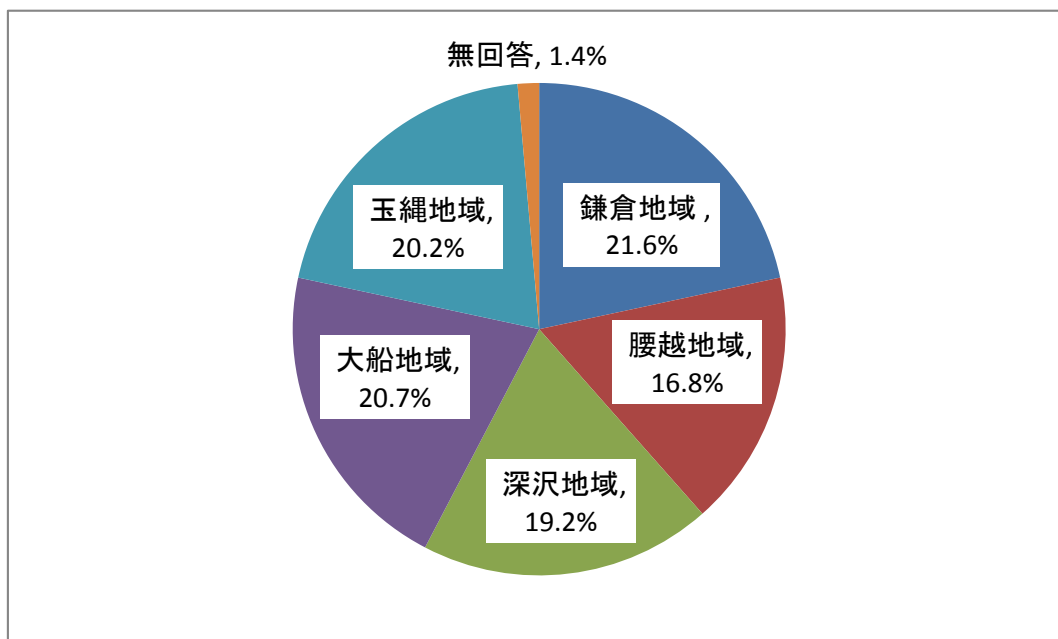
年齢別では、70歳以上が最も多く、28.8%となりました。次いで、50～59歳の16.5%、40～49歳の14.9%、30～39歳の13.2%で、最も少ないのは18～19歳で0.5%となりました。

(3) 家族構成別 (1. ③)



家族構成別では、「夫婦のみ」が最も多く、27.6%となりました。次いで、「親と子の世帯(18歳以下の子どもはいない)」が27.3%となり、最も少ないのは「親と子の世帯(5歳以下の子どもおよび6歳以上18歳以下の子ども)」で、4.0%となりました。

(4) 地区別 (1. ④)

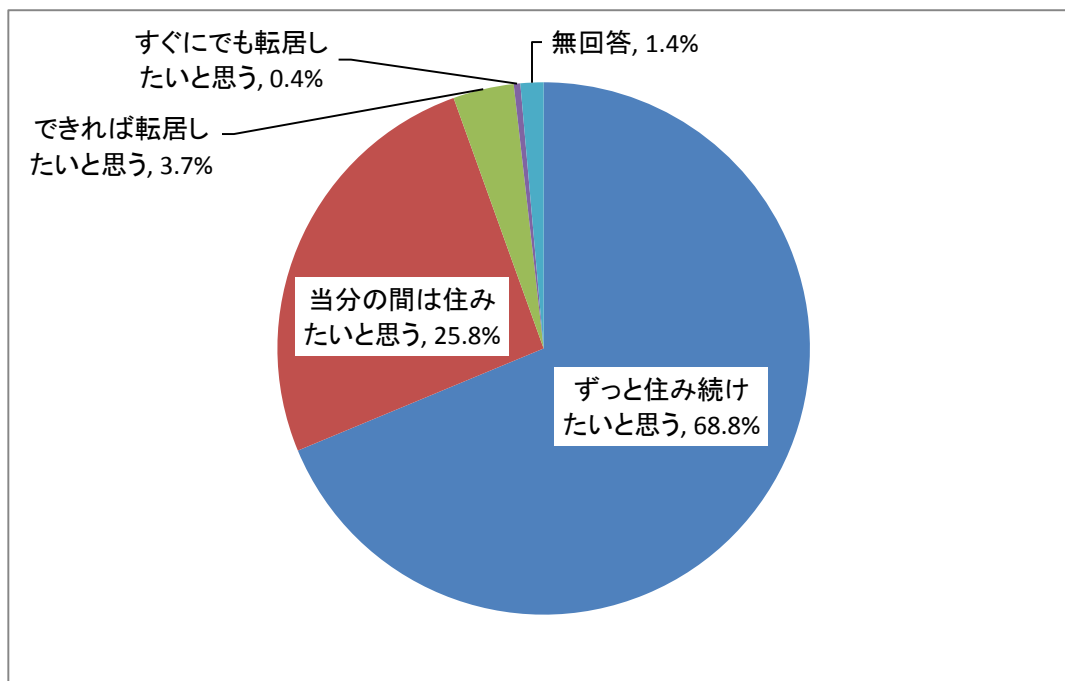


地区別では、「鎌倉地域」が最も多く、21.6%となりました。次いで、大船地域 20.7%、玉縄地域 20.2%、深沢地域 19.2%で、最も少ないのは腰越地域で、16.8%となりました。

2. 鎌倉市への意識、生活状況について

(1) 市への定住意識（2. 問1）

① 全体の分析結果



市への定住意識については、「ずっと住み続けたい」が 68.8%、「当分の間は住みたい」が 25.8%となっており、合計は 94.6%と 9 割を超え、鎌倉市民は定住意識が高いことがわかりました。

② 基本属性別の分析結果

○ 性別

	合計	ずっと住み続けたいと思う	当分の間は住みたいと思う	できれば転居したいと思う	すぐにも転居したいと思う	無回答
合計	855 100.0%	588 68.8%	221 25.8%	32 3.7%	3 0.4%	12 1.4%
男性	375 100.0%	257 68.5%	99 26.4%	13 3.5%	3 0.8%	3 0.8%
女性	473 100.0%	331 70.0%	121 25.5%	19 3.9%	0 0.0%	3 0.6%
無回答	7 100.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 85.7%

性別にみると、男性全体の「ずっと住み続けたい」が68.5%、女性全体の「ずっと住み続けたい」が70.0%となっており、男性よりも女性の定住意識が強いことが分かりました。

○ 年齢別

	合計	ずっと住み続けたいと思う	当分の間は住みたいと思う	できれば転居したいと思う	すぐにも転居したいと思う	無回答
合計	855 100.0%	588 68.8%	221 25.8%	32 3.7%	3 0.4%	12 1.4%
18～29 歳	50 100.0%	15 30.0%	23 46.0%	10 20.0%	1 2.0%	1 2.0%
30～39 歳	113 100.0%	61 54.0%	47 41.2%	5 4.0%	0 0.0%	1 0.9%
40～49 歳	127 100.0%	85 66.9%	38 29.9%	3 2.4%	0 0.0%	1 0.8%
50～59 歳	141 100.0%	93 66.0%	42 29.8%	4 2.8%	1 0.7%	1 0.7%
60～64 歳	85 100.0%	62 72.9%	21 24.7%	2 2.4%	0 0.0%	0 0.0%
65～69 歳	87 100.0%	70 80.5%	16 18.4%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%
70 歳以上	245 100.0%	202 82.4%	33 13.5%	7 2.9%	1 0.4%	2 0.8%
無回答	7 100.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 85.7%

年齢別では、若い世代ほど、「ずっと住み続けたい」と回答している人が少ない傾向にあり、定住意識が弱いことが分かりました。

○ 家族構成別

	合 計	ずっと住み続けたいと思う	当分の間は住みたいと思う	できれば転居したいと思う	すぐにも転居したいと思う	無回答
合計	855 100.0%	588 68.8%	221 25.8%	32 3.7%	3 0.4%	12 1.4%
一人暮らし	66 100.0%	43 65.2%	19 28.8%	3 4.5%	1 1.5%	0 0.0%
夫婦のみ	236 100.0%	180 76.3%	50 21.0%	6 2.3%	1 0.4%	0 0.0%
親と子の世帯(5 歳以下の 子どものみ)	38 100.0%	23 60.5%	15 39.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
親と子の世帯(6 歳以上 18 歳以下の子どものみ)	80 100.0%	47 58.8%	30 37.5%	2 2.5%	0 0.0%	1 1.3%
親と子の世帯(5 歳以下の 子どもも 6 歳以上 18 歳以 下の子どももいる)	34 100.0%	21 61.8%	12 35.3%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%
親と子の世帯(18 歳以下の 子どもはいない)	233 100.0%	157 67.4%	61 26.2%	13 5.6%	1 0.4%	1 0.4%
三世帯世帯	67 100.0%	49 73.1%	15 22.4%	3 4.5%	0 0.0%	0 0.0%
その他	84 100.0%	62 73.8%	16 19.0%	4 4.8%	0 0.0%	2 2.4%
無回答	17 100.0%	6 35.3%	3 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	8 47.1%

家族構成別にみると、「ずっと住み続けたい」と回答している人の割合は“夫婦のみ”の世帯が最も大きく、“親と子の世帯（5歳以下の子どものみ、6歳以上 18 歳以下の子どものみ、5歳以下のおよび6歳以上 18 歳以下の子どものみ）”は「ずっと住み続けたい」と回答している人の割合が比較的小さい傾向となりました。

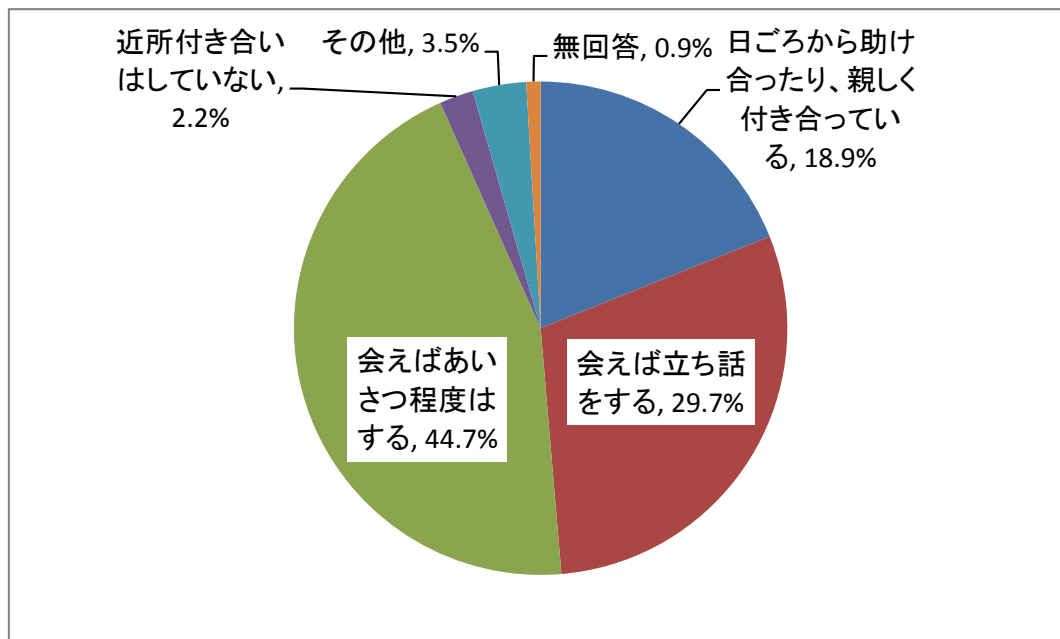
○ 地区別

	合計	ずっと住み続けたいと思う	当分の間は住みたいと思う	できれば転居したいと思う	すぐにでも転居したいと思う	無回答
合計	855 100.0%	588 68.8%	221 25.8%	32 3.7%	3 0.4%	12 1.4%
鎌倉地域	185 100.0%	140 75.7%	35 18.9%	8 4.3%	0 0.0%	1 0.5%
腰越地域	144 100.0%	107 74.3%	31 21.5%	6 4.2%	0 0.0%	0 0.0%
深沢地域	164 100.0%	116 70.7%	43 26.2%	2 1.2%	1 0.6%	2 1.2%
大船地域	177 100.0%	115 65.0%	55 31.1%	5 2.8%	2 1.1%	0 0.0%
玉縄地域	173 100.0%	106 61.3%	55 31.5%	11 6.1%	0 0.0%	2 1.2%
無回答	12 100.0%	4 33.3%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 50.0%

地区別にみると、「ずっと住み続けたい」と回答している人の割合は、鎌倉地域、腰越地域、深沢地域、大船地域、玉縄地域の順に大きく、大船地域、玉縄地域は市全体の結果である 68.8%を下回りました。

(2) 近所づきあい（2. 問2）

① 全体の分析結果



近所づきあいについては、「会えばあいさつ程度はする」が 44.7%と最も多く、次いで「会えば立ち話をする」が 29.7%、「日ごろから助け合ったり、親しく付き合っている」が 18.9%となりました。「近所付き合いはしていない」は 2.2%にとどまり、近所付き合いをまったくしていない人はごくわずかに限られていることが伺える結果となりました。

② 基本属性別の分析結果

○ 性別

	合計	親しく付き合っている	日ごろから助け合ったり、	会えば立ち話をする	会えばあいさつ程度はする	近所付き合いはしていない	その他	無回答
合計	855 100.0%	162 18.9%	254 29.7%	382 44.7%	19 2.2%	30 3.5%	8 0.9%	
男性	375 100.0%	71 18.9%	80 21.3%	203 54.1%	13 3.5%	6 1.6%	2 0.5%	
女性	473 100.0%	91 19.2%	174 36.8%	178 37.6%	6 1.3%	24 5.1%	0 0.0%	
無回答	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 85.7%	

性別にみると、男女とも「会えば立ち話をする」「会えばあいさつ程度はする」の合計は、それぞれ同程度の割合でしたが、男性では、「会えばあいさつ程度はする」の割合が大きく、女性に比べ近所づきあいの程度が浅いことが見て取れます。

○ 年齢別

	合計	親しく付き合っている	日ごろから助け合ったり、	会えば立ち話をする	会えばあいさつ程度はする	近所付き合いはしていない	その他	無回答
合計	855 100.0%	162 18.9%	254 29.7%	382 44.7%	19 2.2%	30 3.5%	8 0.9%	
18～29 歳	50 100.0%	2 4.0%	3 6.0%	40 80.0%	5 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	
30～39 歳	113 100.0%	12 10.6%	30 26.5%	63 55.8%	5 4.4%	2 1.8%	1 0.9%	
40～49 歳	127 100.0%	19 15.0%	34 26.8%	70 55.1%	1 0.8%	2 1.6%	1 0.8%	
50～59 歳	141 100.0%	23 16.3%	43 30.5%	67 47.5%	3 2.1%	5 3.5%	0 0.0%	
60～64 歳	85 100.0%	14 16.5%	29 34.1%	37 43.5%	0 0.0%	5 5.9%	0 0.0%	
65～69 歳	87 100.0%	19 21.8%	31 35.6%	30 34.5%	2 2.3%	5 5.7%	0 0.0%	
70 歳以上	245 100.0%	73 29.8%	84 34.3%	74 30.2%	3 1.2%	11 4.5%	0 0.0%	
無回答	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 85.7%	

年齢別にみると、若い世代ほど、「日ごろから助け合ったり、親しく付き合っている」、「会えば立ち話をする」の割合が小さくなりました。ただし、18～29 歳の世代でも、「近所付き合いはしていない」の割合は 10.0%と小さい結果となっています。

なお、高齢世代ほど、近所付き合いを大切にしていることが伺える結果となりました。

○ 家族構成別

	合 計	親しく付き合っている	日ごろから助け合ったり、 会えば立ち話をする	会えばあいさつ程度はする	近所付き合いはしていない	その他	無 回 答
合計	855 100.0%	162 18.9%	254 29.7%	382 44.7%	19 2.2%	30 3.5%	8 0.9%
一人暮らし	66 100.0%	18 27.3%	16 24.2%	25 37.9%	4 6.1%	3 4.5%	0 0.0%
夫婦のみ	236 100.0%	53 22.5%	76 32.2%	95 40.3%	5 2.1%	7 3.0%	0 0.0%
親と子の世帯(5歳以下の子どものみがいる)	38 100.0%	3 7.9%	11 28.9%	23 60.5%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%
親と子の世帯(6歳以上 18 歳以下の子どものみがいる)	80 100.0%	16 20.0%	25 31.3%	35 43.8%	0 0.0%	3 3.8%	1 1.3%
親と子の世帯(5歳以下の子どもも6歳以上18歳以下の子どももいる)	34 100.0%	7 20.6%	10 29.4%	16 47.1%	0 0.0%	1 2.9%	0 0.0%
親と子の世帯(18 歳以下の子どもはいない)	233 100.0%	41 17.6%	67 28.8%	112 48.1%	5 2.1%	8 3.4%	0 0.0%
三世帯世帯	67 100.0%	9 13.4%	23 34.3%	33 49.3%	0 0.0%	2 3.0%	0 0.0%
その他	84 100.0%	12 14.3%	22 26.2%	40 47.6%	5 6.0%	5 6.0%	0 0.0%
無回答	17 100.0%	3 17.6%	4 23.5%	3 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	7 41.2%

家族構成別にみると、「日ごろから助け合ったり、親しく付き合っている」を選択している人の割合が最も大きいのは、“一人暮らし”であり、最も小さいのは、“親と子の世帯（5歳以下の子どものみ）”となりました。しかし、一方、“一人暮らし”は、「近所付き合いはしていない」を選択している人の割合も最も大きい結果となりました。

“親と子の世帯（5歳以下の子どものみ）”は、「日ごろから助け合ったり、親しく付き合っている」を選択している人の割合が最も小さく、さらに、「立ち話程度をする」との合計でも最も小さく、近所付き合いが比較的少ないことが伺える結果となりました。

○ 地区別

	合計	親しく付き合っている	日ごろから助け合ったり、	会えば立ち話をする	会えばあいさつ程度はする	近所付き合いはしていない	その他	無回答
合計	855 100.0%	162 18.9%	254 29.7%	382 44.7%	19 2.2%	30 3.5%	8 0.9%	
鎌倉地域	185 100.0%	35 18.9%	63 34.1%	76 41.1%	3 1.6%	7 3.8%	1 0.5%	
腰越地域	144 100.0%	26 18.1%	51 35.4%	61 42.4%	1 0.7%	5 3.5%	0 0.0%	
深沢地域	164 100.0%	35 21.3%	43 26.2%	78 47.6%	3 1.8%	5 3.0%	0 0.0%	
大船地域	177 100.0%	33 18.6%	44 24.9%	86 48.6%	6 3.4%	8 4.5%	0 0.0%	
玉縄地域	173 100.0%	32 18.5%	52 30.1%	78 45.1%	5 2.9%	5 2.9%	1 0.6%	
無回答	12 100.0%	1 8.3%	1 8.3%	3 25.0%	1 8.3%	0 0.0%	6 50.0%	

地区別にみると、「日ごろから助け合ったり、親しく付き合っている」を選択している人の割合が最も大きいのは、深沢地域で21.3%でした。他の地域は、いずれも18%台で横並びとなりました。

「日ごろから助け合ったり、親しく付き合っている」と「会えば立ち話をする」の合計で見ると、選択している人の割合が最も大きいのは、腰越地域となりました。この地域は「近所付き合いをしていない」を選択している人の割合が最も小さい結果となっています。

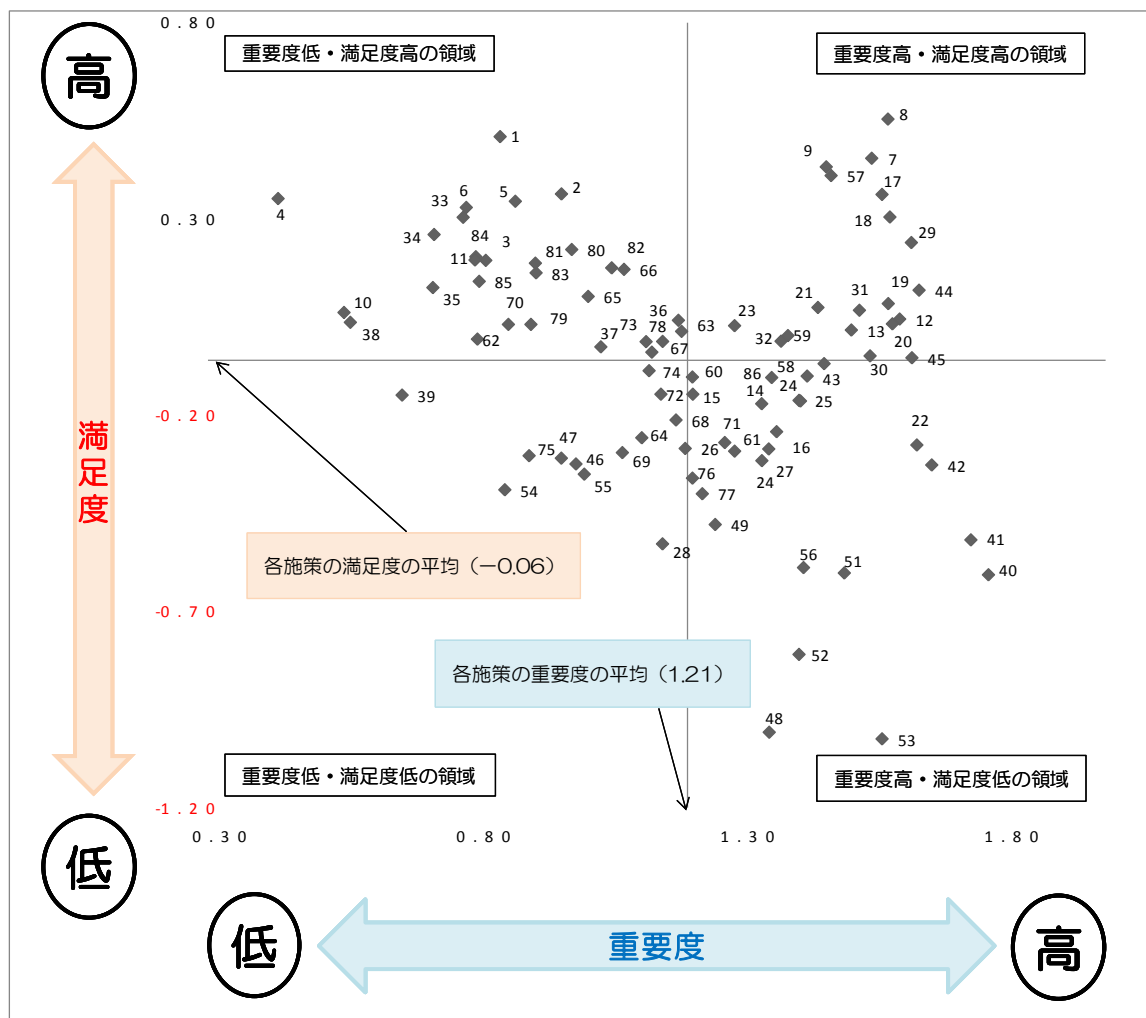
3. 鎌倉市の取組の重要度と満足度（3. 問1）

(1) 鎌倉市全体の分析結果

鎌倉市が行っている86の施策についてのアンケート結果をもとに、重要度が高く満足度が高い施策、重要度が高く満足度が低い施策、重要度が低く満足度が高い施策、重要度が低く満足度が低い施策に4分類し、今後の施策のあり方を判断するための資料として分析しました。

なお、重要度、満足度共に、各項目の市全体平均を基準値として、基準値を上回るものを「高い」、基準値を下回るものを「低い」としています。

以下の図は、行政施策ごとに、重要度と満足度の2軸からプロット（表に点を打つこと）を行ったものです。



次のページの表は、上記の図でプロットされている行政施策ごとに、それぞれがどの領域に含まれているのかを、表で示したものです。

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	平和推進事業の充実	7	史跡の保存・整備
2	人権意識の醸成と施策の充実	8	文化財の保存
3	男女共同参画社会の実現に向けた施策の推進		伝統芸能・工芸などの保存・継承
4	外国籍市民が暮らしやすい環境の整備	12	緑の保全等
5	来訪者への対応	13	海浜の保全と活用
6	国際交流・協力活動への支援	17	ごみの発生抑制、循環資源の利用
10	世界遺産への登録・登録遺産の整備・活用	18	ごみの適正処理
11	市民の文化活動の支援・推進	19	まちの美化
33	地域に根ざした生涯学習の推進	20	環境汚染の未然防止
34	多様な学習機会の提供と学習成果の活用	21	環境保全活動の実践
35	生涯学習施設の整備	23	健康づくりの推進
36	青少年活動の推進、指導・相談体制の充実	29	安心して学べる安全な学校づくり
37	青少年施設の整備	30	教育内容、教育条件、教育施設の整備・充実
38	市民スポーツ・レクリエーションの推進	31	障害のある児童生徒や教育的支援が必要な児童生徒の教育
62	情報格差の解消	32	学校施設の整備
63	行政情報のセキュリティ対策の強化	44	消防機能の整備・充実
65	農業の振興	45	防犯活動の充実・強化
66	沿岸漁業の振興	57	下水道の整備
67	商工業の振興	59	河川・水路の整備
70	特産物の開発、鎌倉ブランド事業の推進		
73	外国人観光客への対応		
78	消費者被害の救済と被害発生防止		
79	消費生活に関する関連情報と教育機会の提供		
80	広聴・広報活動の充実		
81	まちづくりへの参画・協働		
82	情報公開・個人情報保護制度の推進		
83	地域コミュニティのあり方		
84	コミュニティ活動の支援		
85	コミュニティ活動の場、ネットワークづくり		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
26	すべての子育て家庭への支援	14	公園等の整備・管理
28	失業された方などに対する支援	15	野生鳥獣等への対応
39	スポーツ施設の整備と情報提供の推進	16	良好な都市景観形成事業の推進
46	拠点地区の都市整備の推進	22	充実した医療体制の整備・推進
47	既成市街地での都市整備の推進	24	高齢者支援の充実
54	若年ファミリー層や高齢者等を対象とした住宅施策の推進	25	障害者福祉の推進
55	鎌倉らしい住宅・住環境の保全と創造	27	保育園・幼稚園の充実
64	行政情報システムの整備充実・職員の活用能力の向上	40	地震対策の充実
68	地域の特性を生かした商店街づくり	41	風水害対策
69	新規成長産業、中小企業の支援	42	防災意識と地域防災力の強化
72	快適な観光空間の整備	43	公共建築物の維持・保全
74	観光を通じた地域の活性化	48	渋滞解消に向けた交通体系の検討
75	福利厚生施設の整備・推進	49	公共交通機関の輸送力の向上と利用の促進
		50	交通安全意識の高揚
		51	安心して暮らせる交通環境の整備
		52	道路の整備・管理
		53	歩行者等に安全な交通環境の整備
		56	災害に強い安全な住環境の確保
		58	浸水対策の推進
		60	水辺環境の創出
		61	下水道資源(水、熱等)の有効利用
		71	ホスピタリティの向上と観光客のモラル向上
		76	技能の奨励、雇用の支援
		77	労働環境の向上
		86	地域福祉の推進

重要度が低く、満足度が高い領域の行政施策には、**平和・人権**分野の「(1) 平和推進事業の充実」、**男女共同参画社会**分野の「(3) 男女共同参画社会の実現に向けた施策の推進」、**多文化共生社会**分野の「(4) 外国籍市民が暮らしやすい環境の整備」「(5) 来訪者への対応」「(6) 国際交流・協力活動への支援」、**文化**分野の「(11) 市民の文化活動の支援・推進」、**生涯学習**分野の「(33) 地域に根ざした生涯学習の推進」「(34) 多様な学習機会の提供と学習成果の活用」、**コミュニティ活動の活性化**分野の「(83) 地域コミュニティのあり方」「(85) コミュニティ活動の場、ネットワークづくり」などがありました。

この領域の行政施策は、あまり重要ではなく、既に十分な施策展開がなされているとの感想を持たれているものであることから、今後の施策のあり方を検討していく必要があります。

重要度が高く、満足度が低い領域の行政施策には、**歴史環境**分野の「(7) 史跡の保存・整備」「(8) 文化財の保存」、**生活環境**分野の「(17) ごみの発生抑制、循環資源の利用」「(18) ごみの適正処理」、**学校教育**分野の「(29) 安心して学べる安全な学校づくり」、**下水道・河川**分野の「(57) 下水道の整備」などがありました。

これらの領域の行政施策は、市民にとって重要であり、その期待に応えた施策が進められているものであることから、これまでと同様のサービス水準を維持していくことが必要と考えられます。

重要度が低く、満足度が低い領域の行政施策には、**住宅・住環境**分野の「(54) 若年ファミリー層や高齢者等を対象とした住宅施策の推進」、**勤労者福祉**分野の「(75) 福利厚生施設の整備・推進」などがありました。

これらの領域の行政施策は、市民からの関心が薄れた領域であり、施策のあり方を検討していく必要があるといえます。

重要度が高く、満足度が低い領域の行政施策には、**地域安全**分野の「(40) 地震対策の充実」「(41) 風水害対策」「(42) 防災意識と地域防災力の強化」、**総合交通**分野の「(51) 安心して暮らせる交通環境の整備」、**道路整備**分野の「(53) 歩行者等に安全な交通環境の整備」などがありました。

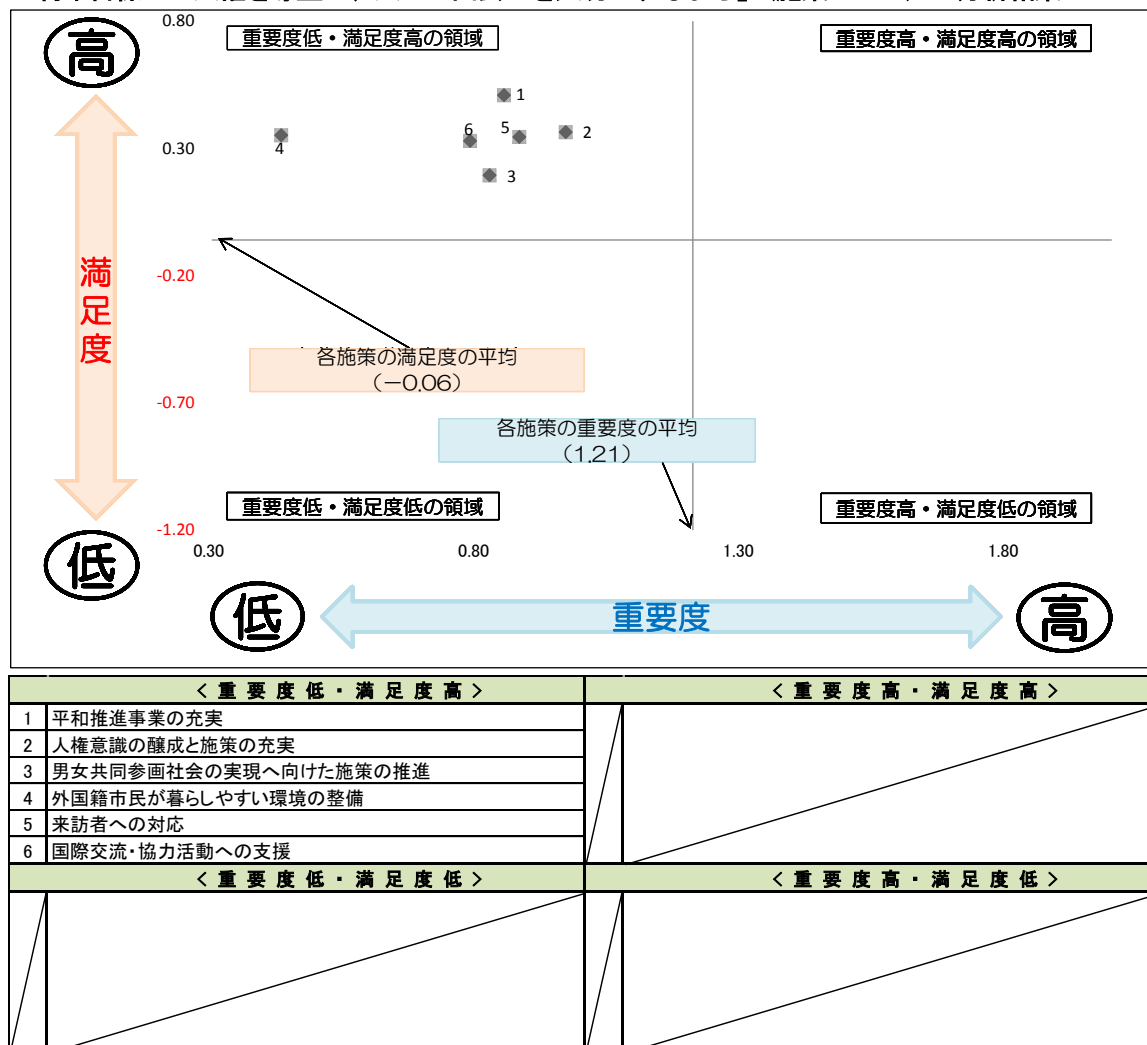
これらの領域の行政施策は、市民が求めている水準に達していないことから、施策の充実・強化を検討することが求められます。

(2) 基本属性別の分析結果

作成中

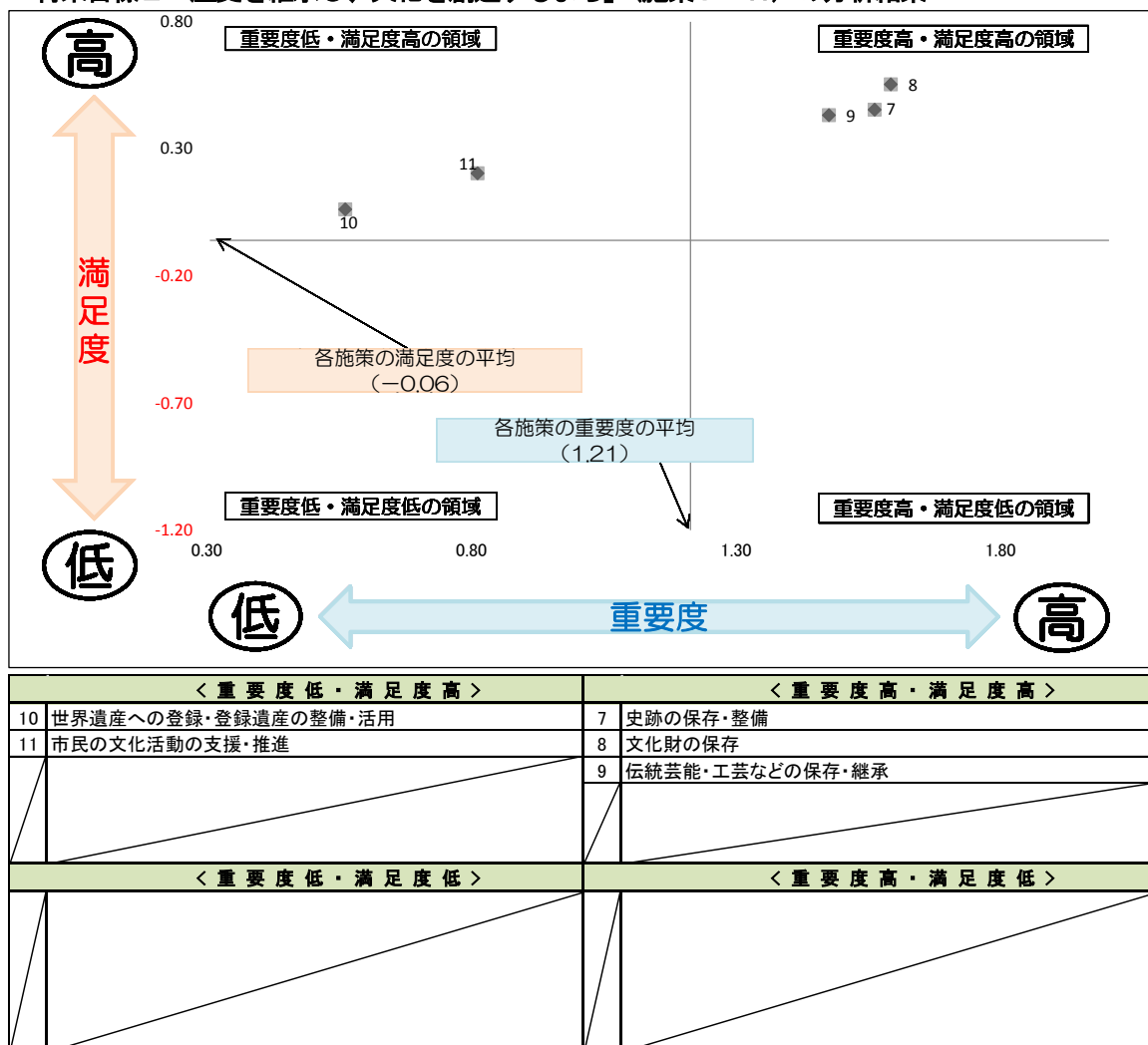
(3) 将来目標別の分析結果

ア 将来目標1「人権を尊重し、人との出会いを大切にするまち」(施策1～6)の分析結果



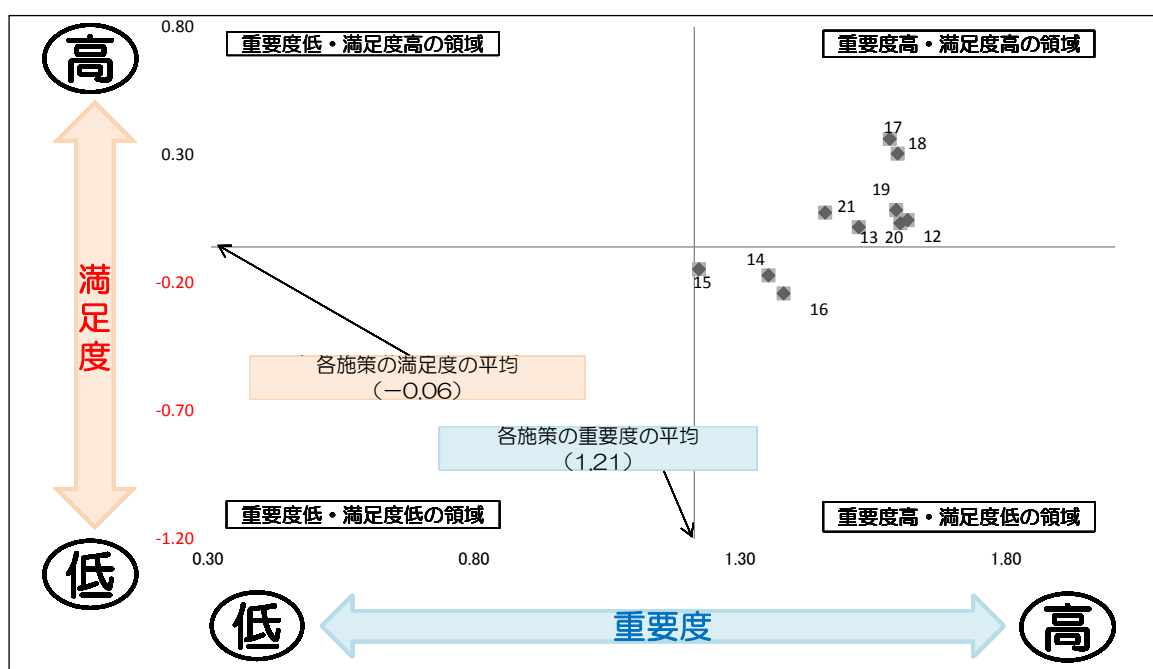
将来目標1「人権を尊重し、人との出会いを大切にするまち」については、いずれの施策についても、満足度は高かったですが、重要度は低かったという結果となりました。

イ 将来目標2「歴史を継承し、文化を創造するまち」(施策7～11)の分析結果



将来目標2「歴史を継承し、文化を創造するまち」については、いずれの施策についても、満足度は高かったですが、とりわけ、「(7) 史跡の保存・整備」、「(8) 文化財の保存」、「(9) 伝統芸能・工芸などの保存・継承」の重要度が高いという結果となりました。

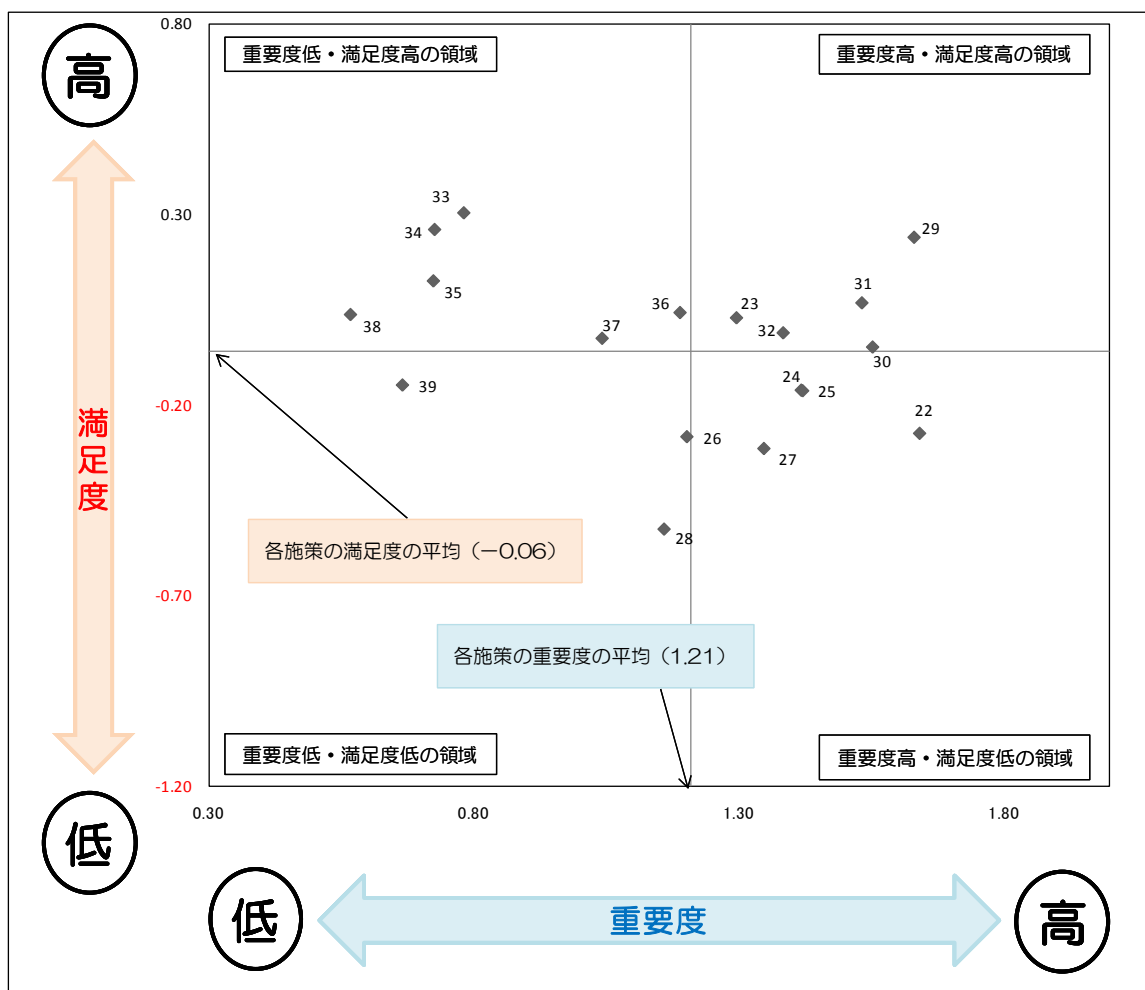
ウ 将来目標3「都市環境を保全・創造するまち」(施策12~21)の分析結果



＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
		12	緑の保全等
		13	海浜の保全と活用
		17	ごみの発生抑制、循環資源の利用
		18	ごみの適正処理
		19	まちの美化
		20	環境汚染の未然防止
		21	環境保全活動の実践
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
		14	公園等の整備・管理
		15	野生鳥獣等への対応
		16	良好な都市景観形成事業の推進

将来目標3「都市環境を保全・創造するまち」については、いずれの施策についても、重要度は高かったですが、とりわけ、「(14) 公園等の整備・管理」、「(16) 良好な都市景観形成事業の推進」の満足度は低く、これらの施策は、住民のニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことが伺われる結果となりました。

エ 将来目標4「健やかで心豊かに暮らせるまち」(施策22～39)の分析結果

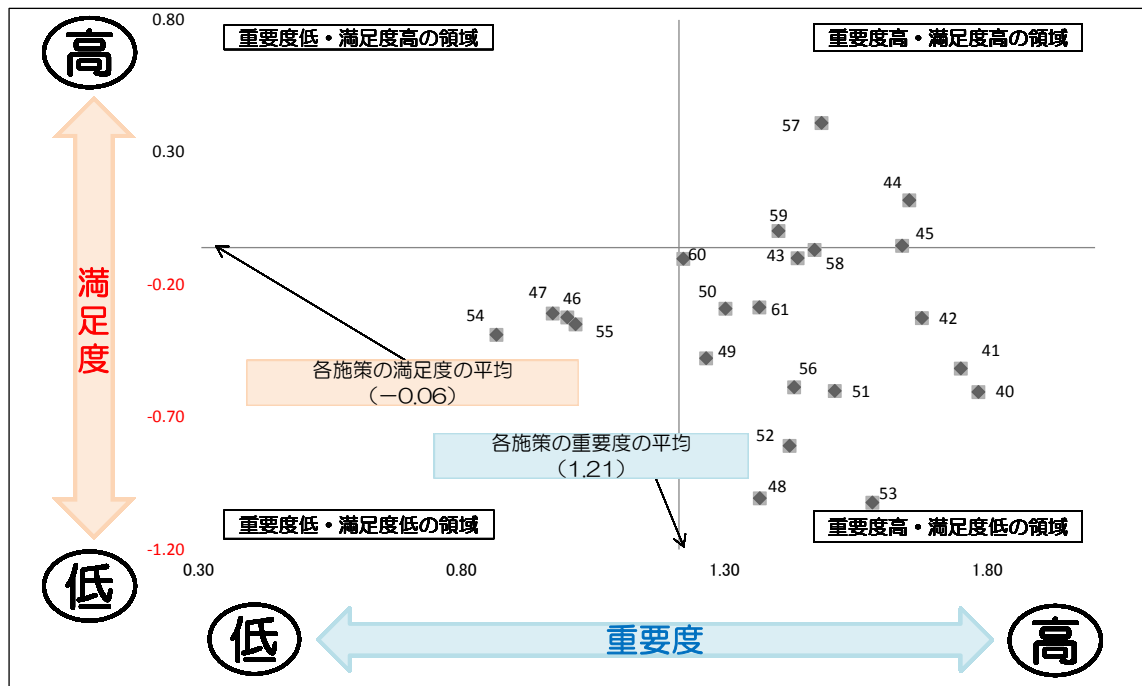


＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
33	地域に根ざした生涯学習の推進	23	健康づくりの推進
34	多様な学習機会の提供と学習成果の活用	29	安心して学べる安全な学校づくり
35	生涯学習施設の整備	30	教育内容、教育条件、教育施設の整備・充実
36	青少年活動の推進、指導・相談体制の充実	31	障害のある児童生徒や教育的支援が必要な児童生徒の教育
37	青少年施設の整備	32	学校施設の整備
38	市民スポーツ・レクリエーションの推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
26	すべての子育て家庭への支援	22	充実した医療体制の整備・推進
28	失業された方などに対する支援	24	高齢者支援の充実
39	スポーツ施設の整備と情報提供の推進	25	障害者福祉の推進
		27	保育園・幼稚園の充実

将来目標4「健やかで心豊かに暮らせるまち」については、「(22) 充実した医療体制の整備・推進」、「(24) 高齢者支援の充実」、「(27) 保育園・幼稚園の充実」は、重要度は高かったですが、満足度は低く、住民のニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことが伺われる結果となりました。

また、「(33) 地域に根ざした生涯学習の推進」、「(34) 多様な学習機会の提供と学習成果の活用」、「(35) 生涯学習施設の整備」などは、重要度は低かったですが、満足度は高く、今後の施策のあり方を検討していく必要があります。

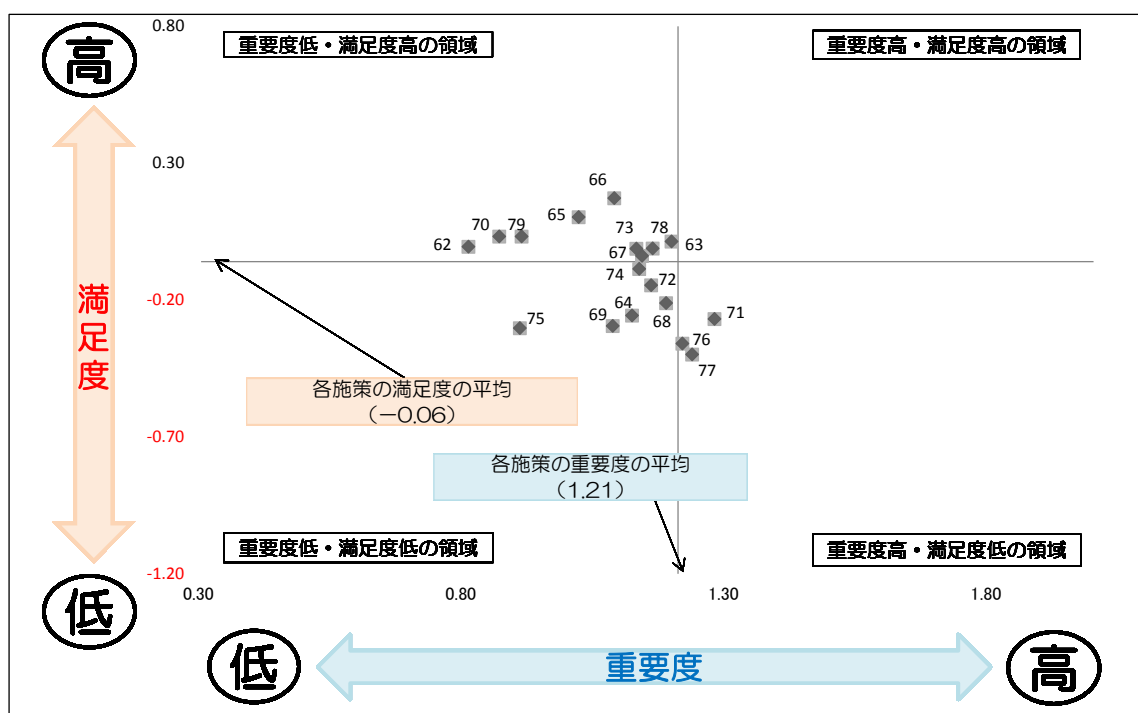
オ 将来目標5「安全で快適な生活が送れるまち」(施策40~61)の分析結果



＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
		44	消防機能の整備・充実
		45	防犯活動の充実・強化
		57	下水道の整備
		59	河川・水路の整備
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
46	拠点地区の都市整備の推進	40	地震対策の充実
47	既成市街地での都市整備の推進	41	風水害対策
54	若年ファミリー層や高齢者等を対象とした住宅施策の推進	42	防災意識と地域防災力の強化
55	鎌倉らしい住宅・住環境の保全と創造	43	公共建築物の維持・保全
		48	渋滞解消に向けた交通体系の検討
		49	公共交通機関の輸送力の向上と利用の促進
		50	交通安全意識の高揚
		51	安心して暮らせる交通環境の整備
		52	道路の整備・管理
		53	歩行者等に安全な交通環境の整備
		56	災害に強い安全な住環境の確保
		58	浸水対策の推進
		60	水辺環境の創出
		61	下水道資源(水、熱等)の有効利用

将来目標5「安全で快適な生活が送れるまち」については、「(40) 地震対策の充実」、「(41) 風水害対策」、「(42) 防災意識と地域防災力の強化」、「(51) 安心して暮らせる交通環境の整備」、「(53) 歩行者等に安全な交通環境の整備」などは、重要度は高かったですが、満足度は低く、住民のニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことが伺われる結果となりました。

カ 将来目標6「活力ある暮らしやすいまち」(施策62～79)の分析結果

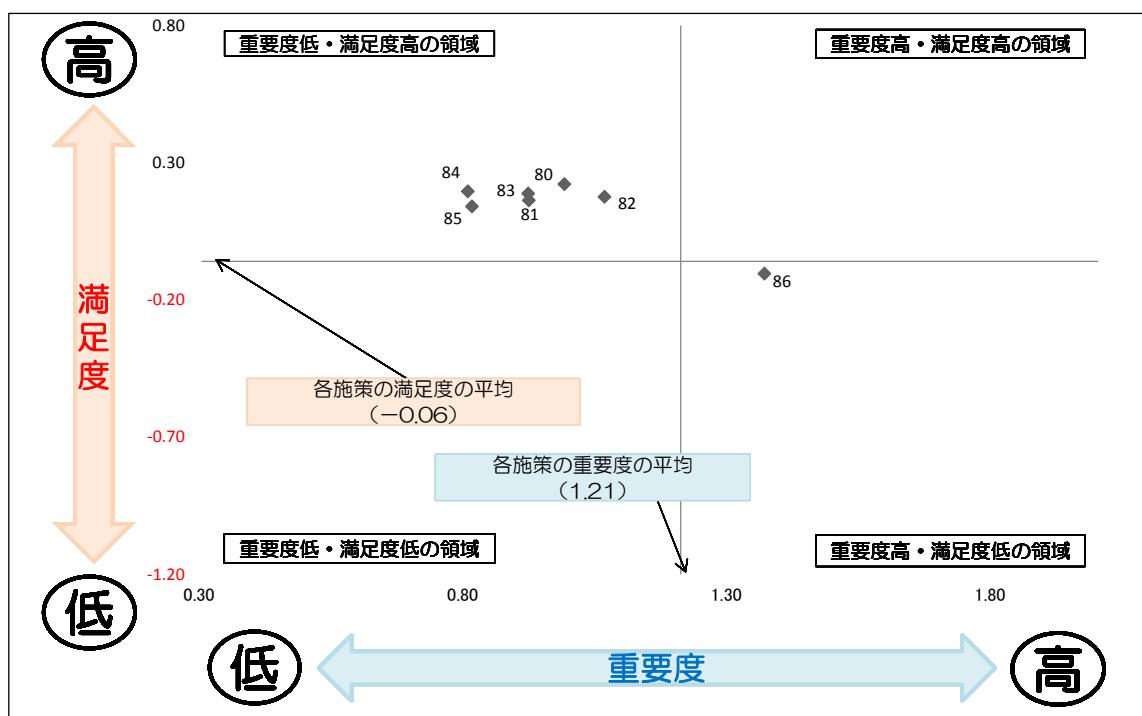


＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
62	情報格差の解消		
63	行政情報のセキュリティ対策の強化		
65	農業の振興		
66	沿岸漁業の振興		
67	商工業の振興		
70	特産物の開発、鎌倉ブランド事業の推進		
73	外国人観光客への対応		
78	消費者被害の救済と被害発生防止		
79	消費生活に関する関連情報と教育機会の提供		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
64	行政情報システムの整備充実・職員の活用能力の向上	71	ホスピタリティの向上と観光客のモラル向上
68	地域の特性を生かした商店街づくり	76	技能の奨励、雇用の支援
69	新規成長産業、中小企業の支援	77	労働環境の向上
72	快適な観光空間の整備		
74	観光を通じた地域の活性化		
75	福利厚生施設の整備・推進		

将来目標6「活力ある暮らしやすいまち」については、「(71) ホスピタリティの向上と観光客のモラル向上」、「(76) 技能の奨励、雇用の支援」、「(77) 労働環境の向上」は、重要度が高かったですが、満足度は低く、住民のニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことが伺われる結果となりました。

また、「(62) 情報格差の解消」、「(70) 特産物の開発、鎌倉ブランド事業の推進」「(79) 消費生活に関する関連情報と教育機会の提供」などは、重要度が低かったですが、満足度は高く、今後の施策のあり方を検討していく必要があります。

キ 計画の推進（施策 80～86）の分析結果



＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
80	広聴・広報活動の充実		
81	まちづくりへの参画・協働		
82	情報公開・個人情報保護制度の推進		
83	地域コミュニティのあり方		
84	コミュニティ活動の支援		
85	コミュニティ活動の場、ネットワークづくり		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
		86	地域福祉の推進

計画の推進については、「(80 広聴・広報活動の充実)」、「(81) まちづくりへの参画・協働」、「(83) 地域コミュニティのあり方」、「(84) コミュニティ活動の支援」、「(85) コミュニティ活動の場、ネットワークづくり」は、重要度は低かったですが、満足度は高く、今後の施策のあり方を検討していく必要があります。

4. 「行政施策」の中で、将来に向けて、特に強く取り組んだほうがよいと感じる項目（3. 問2）

鎌倉市が行っている施策について、将来に向けて、特に強く取り組んだほうがよいと回答した数が多い項目上位5つ（以下「強化すべき施策」という。）を示し、施策の優先順位付けのための分析をしています。

(1) 鎌倉市全体

項目	回答率
地震対策の充実	23.9%
史跡の保存・整備	22.9%
緑の保全等	18.5%
充実した医療体制の整備・推進	17.9%
文化財の保存	13.8%

東日本大震災の影響もあり、「地震対策の充実」を最も強く取り組むべきという結果になりました。

また、歴史都市という特性を反映し、「史跡の保存・整備」「文化財の保存」を強く取り組むべきという結果となりました。

その他、「緑の保全等」「充実した医療体制の整備・推進」が上位となりました。

(2) 性別のクロス集計による分析結果

男性の強化すべき施策は市全体と同様でした。

女性の強化すべき施策には、「文化財の保存」に代わり、「高齢者支援の充実」が含まれる結果となりました。

なお、男性の最上位は「史跡の保存・整備」であり、女性の最上位は「地震対策の充実」でした。

(3) 年齢別のクロス集計による分析結果

65～69歳の世代及び70歳以上の世代を除き、全体と同様、「地震対策の充実」が最上位となりました。なお、65～69歳の世代については、「史跡の保存・整備」が最上位となりました。

○ 18～29 歳

強化すべき施策は、「地震対策の充実」「渋滞解消に向けた交通体系の検討」「すべての子育て家庭への支援」「伝統芸能・工芸などの保存・継承」「保育園・幼稚園の充実」「防災意識と地域防犯力の強化」となりました。

なお、「伝統芸能・工芸などの保存・継承」と「保育園・幼稚園の充実」、「防災意識と地域防犯力の強化」の回答は同数となっています。

○ 30～39 歳

強化すべき施策は、「地震対策の充実」「充実した医療体制の整備・推進」「保育園・幼稚園の充実」「史跡の保存・整備」「公園等の整備・管理」となりました。

○ 40～49 歳

強化すべき施策には、「文化財の保存」に代わり、「安心して学べる安全な学校づくり」「渋滞解消に向けた交通体系の検討」「歩行者等に安全な交通環境の整備」が含まれる結果となりました。

なお、「緑の保全等」と「充実した医療体制の整備・推進」の回答は同数となっています。また、「安心して学べる安全な学校づくり」と「渋滞解消に向けた交通体系の検討」、「歩行者等に安全な交通環境の整備」

の回答も同数となっています。

○ 50～59 歳

強化すべき施策は、市全体と同様でした。

○ 60～64 歳

強化すべき施策には、「文化財の保存」に代わり、「平和推進事業の充実」「高齢者支援の充実」が含まれる結果となりました。

なお、「平和推進事業の充実」と「充実した医療体制の整備・推進」の回答は同数となっています。また、「史跡の保存・整備」と「高齢者支援の充実」の回答も同数となっています。

○ 65～69 歳

強化すべき施策は、市全体と同様の施策に加え、「平和推進事業の充実」「良好な都市景観形成事業の推進」が含まれる結果となりました。

なお、「平和推進事業の充実」と「文化財の保存」、「良好な都市景観形成事業の推進」の回答は同数となっています。

○ 70 歳以上

強化すべき施策には、「充実した医療体制の整備・推進」に代わり、「高齢者支援の充実」が含まれる結果となりました。

(4) 家族構成別のクロス集計による分析結果

「地震対策の充実」は、いずれの家族構成においても上位になっており、関心の高さが伺える結果となりました。

また、「史跡の保存・整備」などの歴史・文化に関連する項目も上位になっているケースが多い結果となりました。

その他、子どもをもつ家庭で、子育てに関係する項目が上位になったり、高齢者をもつ家庭で、高齢者支援に関する項目が上位になったりするなど、家族構成を反映する結果となりました。

○ 一人暮らし

強化すべき施策には、「伝統芸能・工芸などの保存・継承」「良好な都市景観形成事業の推進」が含まれる結果となりました。また、最も強く取り組むべき施策が「史跡の保存・整備」となるなど、歴史・文化を重視していることが伺える結果となりました。

なお、「伝統芸能・工芸などの保存・継承」と「地震対策の充実」の回答は同数となっています。また、「緑の保全等」と「良好な都市景観形成事業の推進」、「充実した医療体制の整備・推進」の回答も同数となっています。

○ 夫婦のみ

強化すべき施策は市全体と同じですが、市全体で最も強く取り組むべきとされた「地震対策の充実」が2番目となり、「史跡の保全・整備」が最も強く取り組むべきという結果になりました。

なお、「文化財の保存」と「緑の保全等」の回答は同数となっています。

○ 親と子の世帯（5歳以下の子どものみ）

強化すべき施策は、「すべての子育て家庭への支援」「保育園・幼稚園の充実」「地震対策の充実」「公園等の整備・管理」「史跡の保存・整備」となりました。子育てに直結する問題を重視していることが伺える結果となりました。

なお、「すべての子育て家庭への支援」と「保育園・幼稚園の充実」の回答は同数となっています。

○ 親と子の世帯（6歳以上18歳以下の子どものみ）

強化すべき施策は、「地震対策の充実」「安心して学べる安全な学校づくり」「緑の保全等」「教育内容、教育条件、教育施設の整備・充実」「充実した医療体制の整備・推進」となりました。学校に対する事項を重視していることが伺える結果となりました。

○ 親と子の世帯（5歳以下の子どもおよび6歳以上18歳以下の子ども）

強化すべき施策は、「地震対策の充実」「充実した医療体制の整備・推進」「保育園・幼稚園の充実」「すべての子育て家庭への支援」「史跡の保存・整備」「緑の保全等」「歩行者等に安全な交通環境の整備」となりました。

なお、「史跡の保存・整備」と「緑の保全等」、「歩行者等に安全な交通環境の整備」の回答は同数となっています。

○ 親と子の世帯（18歳以下の子どもはいない）

強化すべき施策には、「文化財の保存」に代わり、「高齢者支援の充実」が含まれる結果となりました。

なお、「史跡の保存・整備」と「地震対策の充実」の回答は同数となっています。また、「充実した医療体制の整備・推進」と「高齢者支援の充実」の回答も同数となっています。

○ 三世帯世帯

強化すべき施策には、「文化財の保存」に代わり、「渋滞解消に向けた交通体系の検討」が含まれる結果となりました。

なお、「史跡の保存・整備」と「地震対策の充実」の回答は同数となっています。

○ その他

強化すべき施策は、「緑の保全等」「地震対策の充実」「高齢者支援の充実」「風水害対策」「充実した医療体制の整備・推進」となりました。

なお、「高齢者支援の充実」と「地震対策の充実」の回答は同数となっています。

(5) 地域別のクロス集計による分析結果

「地震対策の充実」は、いずれの地区においても上位になっており、関心の高さが伺える結果となりました。また、市街地を抱える地域では、交通に関する項目が上位になるなど、地区の特性を反映する結果となりました。

○ 鎌倉地域

強化すべき施策には、「文化財の保存」に代わり、「高齢者支援の充実」「渋滞解消に向けた交通体系の検討」が含まれる結果となりました。

なお、「高齢者支援の充実」と「渋滞解消に向けた交通体系の検討」の回答は同数となっています。

○ 腰越地域

強化すべき施策は、市全体と同様でしたが、最も強く取り組むべき施策は、「史跡の保存・整備」となりました。

なお、「充実した医療体制の整備・推進」と「地震対策の充実」の回答は同数となっています。また、「文化財の保存」と「緑の保全等」の回答は同数となっています。

○ 深沢地域

強化すべき施策は、市全体と同様の施策に加え、「高齢者支援の充実」が含まれる結果となりました。

なお、「文化財の保存」と「高齢者支援の充実」の回答は同数となっています。

○ 大船地域

強化すべき施策は、市全体と同様の施策に加え、「渋滞解消に向けた交通体系の検討」が含まれる結果となりました。

なお、「緑の保全等」と「充実した医療体制の整備・推進」の回答は同数となっています。また、「文化財の保存」と「渋滞解消に向けた交通体系の検討」の回答は同数となっています。

○ 玉縄地域

強化すべき施策は、市全体と同様でした。

5. 「政策分野」の中で、将来に向けて、特に強く取り組んだほうがよいと感じる項目（3. 問3）

鎌倉市の政策分野について、将来に向けて、特に強く取り組んだほうがよいと回答した数が多い項目上位3つ（以下「強化すべき分野」という。）を示し、施策の優先順位付けのための分析をしています。

(1) 鎌倉市全体

項目	回答率
地域安全	29.0%
健康福祉	25.5%
学校教育	23.0%

市全体では、「地震対策の充実」などの「地域安全」、「高齢者支援の充実」や「充実した医療体制の整備・推進」などの「健康福祉」、「教育内容、教育条件、教育施設の整備・充実」などの「学校教育」が上位になりました。

(2) 性別のクロス集計による分析結果

男性の強化すべき分野は、「学校教育」に代わり、「歴史環境」が含まれる結果となりました。
女性の強化すべき分野は市全体と同様でした。

(3) 年齢別のクロス集計による分析結果

いずれの年齢層においても、市全体の結果と同様、「地域安全」、「健康福祉」、「学校教育」が上位になっており、関心の高さが伺える結果となりました。

○ 18～29 歳

強化すべき分野は、市全体と同様でした。

○ 30～39 歳

強化すべき分野は、市全体と同様でしたが、最も強く取り組むべき分野は、「健康福祉」となりました。

○ 40～49 歳

強化すべき分野は、市全体と同様でした。

なお、「学校教育」と「地域安全」の回答は同数となり、「健康福祉」は3番目に強く取り組むべき分野となりました。

○ 50～59 歳

強化すべき分野は、市全体と同様でした。

○ 60～64 歳

強化すべき分野は、市全体と同様でした。

なお、「健康福祉」と「学校教育」の回答は同数となっています。

○ 65～69 歳

強化すべき分野には、「健康福祉」に代わり、「歴史環境」が含まれる結果となりました。

○ 70 歳以上

強化すべき分野は、市全体と同様でしたが、最も強く取り組むべき分野は、「健康福祉」となりました。

(4) 家族構成別のクロス集計による分析結果

「地域安全」は、いずれの家族構成においても上位になっており、関心の高さが伺える結果となりました。

○ 一人暮らし

強化すべき分野には、「学校教育」に代わり、「歴史環境」が含まれる結果となりました。

○ 夫婦のみ

強化すべき分野には、「学校教育」に代わり、「歴史環境」「生活環境」が含まれる結果となりました。
なお、「歴史環境」と「健康福祉」の回答は同数となっています。

○ 親と子の世帯（5 歳以下の子どものみ）

強化すべき分野は、市全体と同様でしたが、最も強く取り組むべき分野は、「健康福祉」となりました。

○ 親と子の世帯（6 歳以上 18 歳以下の子どものみ）

強化すべき分野には、「健康福祉」に代わり、「歴史環境」が含まれる結果となりました。また、最も強く取り組むべき分野は、「学校教育」となりました。

○ 親と子の世帯（5 歳以下の子どもおよび 6 歳以上 18 歳以下の子ども）

強化すべき分野は、市全体と同様でしたが、最も強く取り組むべき分野は、「学校教育」となりました。

○ 親と子の世帯（18 歳以下の子どもはいない）

強化すべき分野には、「学校教育」に代わり、「歴史環境」が含まれる結果となりました。

○ 三世帯世帯

強化すべき分野は、市全体と同様でした。

なお、「学校教育」と「地域安全」の回答は同数となり、「健康福祉」は3番目に強く取り組むべき分野となりました。

○ その他

強化すべき分野には、「学校教育」に代わり、「みどり」「生活環境」が含まれる結果となりました。
なお、「みどり」と「生活環境」の回答は同数となっています。

(5) 地域別のクロス集計による分析結果

○ 鎌倉地域

強化すべき分野は、市全体と同様でした。

○ 腰越地域

強化すべき分野は、市全体と同様でしたが、最も強く取り組むべき分野は、「学校教育」となりました。

○ 深沢地域

強化すべき分野は、市全体と同様でした。

○ 大船地域

強化すべき分野には、「学校教育」に代わり、「みどり」が含まれる結果となりました。

○ 玉縄地域

強化すべき分野には、「学校教育」に代わり、「歴史環境」が含まれる結果となりました。